

■ 全体講評

午後 I 記述式問題では、問 4 以外の得点率は高いという状況を根拠に、学習が予定どおりの進捗である受講生が多いと判断します。

問 1 は、設問 4 の難易度が高かったようです。問題文だけではなく、問題文と図をバランスよく読解するように問題を読むようにしましょう。

問 2 は、設問 4(2)の「タイムスタンプで昇」が以外と難しかったようです。空欄の直後に「順に整列して」と書いてあるので、SQL を思い出せた方は正解できたと推測します。本試験でも SQL の考え方で仕様が記述されることが予想できるので、SQL を考慮して問題に臨むとよいでしょう。

問 3 は平成 18 年秋のアプリケーションエンジニア試験の本試験問題です。4 年前であるため、現在よりも難易度は低めであると判断しますが、たとえ高得点できても安心しないで、他の問題も解いてみてください。

問 4 は 20%ほどの選択率であり、予想以上に多くの受講生が選択しました。ただし、問 4 は組込みシステムの技術者向けの問題であるため、情報システムを担当する受講生が解答できても、得点できる解答を導くことは難しかったという状況です。情報システムを担当する技術者は、この経験を基に、組込みシステムの問題も学習の視野に入れるのかを判断して本試験に臨むとよいでしょう。

採点して気付いた点を次に説明します。

(1)問題文にある漢字を間違った字で解答欄に書かない
「購売」など、問題文にある漢字を間違わないようにしてください。これは、論述式問題でも同じです。

(2)「運用面での作業」などの設問の条件を満足する解答を導く

設問の条件を満足しない解答は部分点もないと考えてください。

(3)問題を適切に選択する

選択の漏れ、点数記入欄に○を記入している解答者がいます。選択漏れ、選択方法に誤りがないように、しっかりと問題冊子をチェックしましょう。

では、次に問題ごとにポイントを講評しながら、採点基準についても説明します。なお、設問ごとの講評については、重要なものだけに絞り込んでいます。

■ 問題ごとの講評と採点基準

問 1 購買システムの設計と移行計画

〔講評〕

問題文において使われている用語は、そのまま使って解答してください。それができていない場合は厳しく減点しています。例えば、「購買」を「購売」と誤字している解答は不正解としました。問題文に使われている漢字を正しく書けない場合、このように減点あるいは不正解とされるので注意しましょう。

〔設問4〕

(1)「有効」、「無効」という解答が 1 割ほどありました。設問文を適切に読解しましょう。設問文の記述から移行直後のステータスについて問うていることを確認してください。

(2) 難易度の高い設問でした。このような穴埋め問題では、空欄部分の前後の記述に注目します。この設問では、空欄の直前の「納品ファイルはデータ移行の対象ではないから」という記述に注目して解答を導きます。

【採点基準】

〔設問1〕

(1) 問題文の〔追加機能要件〕の(1)に「実際の納品数となるように手書きで訂正しておき」という記述があるので、「納品数」を別解としました。

解答例と同様の趣旨 5 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(2) 解答例と同様は 5 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問2〕

(1)「納期」、「購買リードタイム」を得点対象として採点し、片方だけの場合は 5 点中 2 点の部分点としました。

(2)「発注指示ファイル」、「発注予定日」を得点対象として採点し、片方だけの場合は 5 点中 2 点の部分点としました。

〔設問3〕

(1)「発注処理」を解答できることよりも「再納品指示処理」についても解答できるかを問う設問です。発注処理と再納品指示処理の両方を指定していない解答は 5 点中 1 点の部分点としました。

(2) 設問の条件に注目することが正解を導くポイントです。この設問では「運用面での作業」に注目しましょう。解答例と同様は 5 点、その他は、基本的に

0点としました。

[設問4]

- (1) 解答例と同様は5点、その他は、基本的に0点としました。
- (2) 解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。
- (3) ケースが不正解の場合は無条件で対処方法も不正解としました。

ケースについて、受入処理で納品数不足を挙げた解答がありました。[旧システムの概要]の(2)の「数量不足の場合は受け入れない」という記述を根拠に不正解としました。ケースでは「検収処理」と「不良品」を得点対象として採点し、片方だけの場合は5点中2点の部分点としました。

対処方法について、解答例と同様は5点、その他は、基本的に0点としました。

問2 小売業の販売システムの設計

[講評]

時間を各設問に適切に分配して、設問の最後まで目を通すようにしてください。なお、設問4の後半の難易度は低いです。本試験においても、このような難易度設定はよくあります。しっかりと時間管理をして、最後の設問まで目を通しましょう。

[設問1]

正答率の高い設問です。そのような場合、注意深く解答してください。例えば、「売上げようとした場合」ではなく、「売上処理をしようとした場合」として、キーワードである売上処理を明示するようにしてください。

[設問3]

- (1) 「店舗間商品移動数」という解答がありました。店舗間商品移動業務に関する記述から、店舗間商品移動業務では移動元と移動先の両店舗の現在在庫数を店舗間商品移動数で更新することが分かります。したがって「店舗間商品移動数」は見なし在庫になりません。

[設問4]

- (1) 設問1が伏線になっている設問です。設問1(2)のように「追加すべき処理」と書かれている場合を除いて、基本的には既存の処理名を解答してください。
- (2) 「タイムスタンプ」までは解答として導ける方が多かったです。「昇」まで導いた方は、そのうち半数くらいでした。設問では解答条件は「9字」となっている点に注目してください。
- (3) 正答率の高い設問です。設問文の条件を満たすように解答してください。この設問では「運用管理の観点から」という記述が重要です。

【採点基準】

[設問1]

「仕入処理」、「売上処理」を得点対象として採点し、片方だけの場合は5点中2点の部分点としました。

別解として、仕入処理の未済について書いてれば正解としました。

[設問2]

- (1) 「予約在庫」というキーワードがなくとも、内容が合っている解答を正解としました。解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

- (2) 追加すべき処理名称が不正解の場合は、無条件に処理の内容も不正解としました。

処理の名称については、解答例と同様5点、その他は、基本的に0点としました。

処理の内容については、「受注数量」、「現在在庫数」、「予約在庫数」を得点対象とし、キーワードがないと5点からそれぞれ-2点としています。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

- (2) 解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

[設問4]

- (1) 処理名が不正解の場合は、ケースも不正解としました。

ケースについては、解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

処理名については、解答例と同様5点、その他は、基本的に0点としました。

- (2) 解答例と同様5点、その他は、基本的に0点としました。

- (3) 解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

問3 プロジェクト原価管理システムの設計

[講評]

問題文で使われている用語を正確に使うって解答を書くようにしてください。設問1(2)において「作業費」という解答は厳しいですが得点対象としませんでした。問題の図2を見ると、「作業費」という用語も使われていますが、空欄bの直後では「直接作業費」という使い方をしています。問題文の用語を使って解答を書く際は、年に1度しかない試験ですから、このように細心の注意を払うようにした方がよいでしょう。

[設問1]

- (2) 高い正答率です。「予定原価」を含んだ解答は不正解としています。「予定原価」を含まない理由は解答

解説を参考にしてください。

【採点基準】

【設問1】

- (1) 「仕入先一覧表」でも正解としました。解答例と同様3点、その他は、基本的に0点としました。
- (2) 解答例と同様3点、その他は、基本的に0点としました。

【設問2】

- (1) 解答例と同様3点、その他は、基本的に0点としました。
- (2) 「賃率」又は「時間当たりの作業費」、「直接作業費」を得点対象とし、片方だけの場合は8点中4点の部分点としました。

【設問3】

設問文から解答には処理名を含むことが求められていると判断してください。厳しいですが「作業日報を入力」や「作業日報を記録」では不正解としました。「作業日報入力」を必須の得点対象とし、このキーワードを使って適切に表現している解答を8点とし、その他は、基本的に0点としました。

【設問4】

処理名については、解答例と同様3点、その他は、基本的に0点としました。

変更内容については、解答例と同様の趣旨8点、その他は、基本的に0点としました。ただし、処理名「プロジェクト計画原価登録」において、計画原価の合計や予定原価の書換えについて書いている解答については、部門間の調整が必要と判断し、4点の部分点としています。

問4 駐車場管理システムの開発

【講評】

問題文において具体的に説明している箇所に注目して、そこに正解を導くヒントがあると考えてください。この問題では、例えば、[場内掲示板ユニット表示]の(2)と(3)の記述、及び、(4)の「駐車スペースに駐車している車両の合計である駐車台数」です。このような記述を見つけたら、鉛筆で注目のためのマーキングをするとよいでしょう。

【設問2】

- (1) 駐車スペースから出口に向う場合も場内掲示板ユニットをオンにしなければならないことに注目して解答を導いてください。

【採点基準】

【設問1】

- (1) 「カメラ機能」、「車両センサ」などの解答がありました不正解としました。画像から車両ナンバーを得

る機能についてのみ正解としました。結果、解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

- (2) 問題文に書かれている粒度に合わせて解答することを重視して採点しました。

「入庫要求」、「入庫完了」、「他の入庫ユニットからの入庫要求」を得点対象とし、キーワードのない場合は、8点からそれぞれ-3点としました。

【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨8点、その他は、基本的に0点としました。
- (2) プロセスを部分点なしの4点、データフローを部分点なしの4点、合計8点で採点しました。

【設問3】

- (1) 「空車」という駐車状態、「入庫台数から1を減算」をそれぞれ4点、合計8点として採点しました。
- (2) 解答例と同様の趣旨8点、その他は、基本的に0点としました。

【設問4】

「リモート操作機能」も別解としました。厳しいですが、部分点なし、としました。

解答例と同様の趣旨5点、その他は、基本的に0点としました。

■ 公開模試に向けて

午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題対策では、テキスト学習を併用しながら、過去問題を中心に勉強し、情報技術に関する最新動向に関する専門知識を専門雑誌などから吸収するようにしましょう。

午後Ⅰ記述式問題対策では、去年の本試験問題、システムアーキテクト試験に該当するアプリケーションエンジニア試験の過去問題に加えて、ソフトウェア開発技術者試験や応用情報技術者試験の午後Ⅰの過去問題についても、演習時間を決めて演習するとよいでしょう。

午後Ⅱ論述式問題対策では、設問アで述べた内容を踏まえて設問イやウで論旨展開する方法、工夫や能力のアピール方法をテキストなどで確認して、論文における実務経験や専門知識の活用方法を身に付けるとよいでしょう。なお、解答用紙に、設問ア、設問イ、設問ウをどこから論述開始するかについて明確な指示がありますから、それを確認して論述を開始するようにしましょう。

—以上—